

# 行敏御返事

文永八年七月一三日 五〇歳

## 行敏初度の難状

未だ見参げんざんに入らずと雖も、事の次ついでを以て申し承るは常の習ひに候か。

抑そもそも風聞の如くんば所立の義もつと尤も以て不審なり。法華の前に説ける一切の諸経は、皆是妄語にして出離しゅつりの法に非ずと是。

大小の戒律は世間を誑惑おうわくして悪道に墮せしむるの法と是。

念仏は無間地獄の業たりと是。

禅宗は天魔の説、若し依って行ずる者は悪見を増長すと是。

事若し実まことならば仏法の怨敵なり。仍って対面を遂げて悪見を破らんと欲す。将又はたまた其の義無くんば争いかでか悪名こうむを被らざらん、痛ましきかな。是非に付き委しく示し給はるべきなり。恐々謹言。

七月八日

僧行敏 在判

日蓮阿闍梨御房

条々御不審の事、私の問答は事行き難く候か。然れば上奏を経られ、仰せ下さるゝの趣おもむきに随って是非を糾明せらるべく候か。

此くの如く仰せを蒙こうむり候条、尤も庶幾もつと しょきする所に候。恐々謹言。

七月十三日

日蓮花押

行敏御房御返事